

伝統医学は人類が自然の摂理と天然の恵みを巧みに利用し、疾病の予防、治療にあたってきた経験知の集積です。和漢医薬学総合研究所は、現代の先端科学技術を駆使して、和漢薬をはじめとする伝統医学や伝統薬物を科学的に研究し、東洋医薬学と西洋医薬学の融合を図り、新しい医薬学体系の構築と自然環境の保全を含めた全人的医療の確立に貢献することを使命として、①天然薬物資源の確保と保全、②和漢医薬学の基礎研究の推進と東西医薬学の融合、③漢方医学における診断治療体系の客観化と人材の育成、④伝統医薬学研究の中核的情報発信拠点の形成 の重点課題を設けて、研究を推進しております。

特に、世界的に問題になっている高齢化の進行、多因子性疾患の増加、及び天然資源の枯渇に鑑み、本研究所では令和 2 年度から重点研究プロジェクト（高齢者疾患対策研究、代謝・免疫疾患対策研究、未病医療・創薬研究及び資源開発研究[令和 4 年度現在]）を推進し、その成果を社会実装することを目指しています。これらの目標を達成するための組織として、研究開発部門として 5 分野（資源開発、病態制御、複雑系解析、未病、国際共同研究）が連携し、特に臨床研究への橋渡しを目指した基礎研究や新規メカニズムに基づく創薬基盤の構築を目指した研究を行っています。さらに、臨床応用、産官学連携の 2 部門では、附属病院や企業と協力して臨床試験や医薬品候補の発掘を推進しています。加えて、和漢医薬教育研修センターでは漢方医学教育を実践できる教員の育成とその教育研修システムの確立を目的とした教育研究活動を推進しています。これらの 3 部門 1 センターが互いに連携し、東西医薬学の融合を基盤とした次世代型医療科学を創生して、健康長寿社会の形成に貢献することです。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、我々の日常生活が大きく変遷しており、大学での教育研究活動も同様に変化が必要になっています。この数年間の経験からも、今後も新たな感染症への対応や、長寿高齢化社会を背景とした疾患の多様化への対応が重要な課題であることは明白です。我々人類が健康長寿社会を実現するためには、これまでに長きにわたり持続して保健医療に用いられてきた歴史を持つ伝統医薬学を活用することが肝要と考えられます。その実現のため、重要先端の生命科学・自然科学や科学技術を駆使して科学的エビデンスに基づく研究を念頭に、和漢医薬学領域と異分野領域との融合型共同研究を行うことが重要です。この方針の下、教育研究を進める所存ですので、皆様方の一層のご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

令和 4 年 4 月 1 日

和漢医薬学総合研究所 所長 早川芳弘